

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒190-0013
東京都立川市富士見町2-12-13 安藤ビルB1F
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

2013年(平成25年)12月16日 月曜日

無料

第19号

毎月発行

創刊2013年(平成25年)12月16日 月曜日



あいさつ中の青池監督

**映画監督・青池氏参加
宮城・石巻の近況報告**
十二月五日、日本橋にある「旬味 ささや」で「三陸酒海鮮会・日本橋開催」第二回目を開催した。おかげさまで、一回目に引き続き盛

第2回 三陸酒海鮮会・日本橋開催

ドキュメンタリー映画監督青池憲司氏から
石巻近況報告と映画撮影時のお話もあり
仮設住まいはまだ二十万人以上の現実
被災者生活再建の厳しさはこれから本格化

況のうちに終了した。日本酒ラインナップも充実、三陸海産物も宮城・南三陸町のマダコ、ホタテ、石巻のクジラなど、参加者のみなさんも三陸のおいしさを堪能しつつ、おいしい日本酒をたらふく召し上がっていただけたようだ。また、今回の参加者のなかにドキュメンタリー映画監督の青池憲司氏があり、石巻を舞台にした二本の映画撮影の話や、映画撮影後一か月から一カ月半に一度の割合で訪問されている石巻の被災地としての厳しい現実をお話しいただいた。

『三陸酒海鮮会』の名付け親でもある青池氏にこうしてお話をさせていただくことで、この会が単なる飲み会ではなく、被災地支援を目的とした会であることをあらためて考えるちようど良い機会であったと思う。

前記のドキュメンタリー映画は以前、当新聞でも取り上げた(第10号「バックナンバー」参照)。「津波のあとの時間割」石巻・門脇小・1年の記録」と『3月11日を生きと〜石巻・門脇小・人びと〜ことば』の二本である。前者は筆者も今年三月にポレポレ東中野で見た。子供たちの明るさの裏にある「とても重たいもの」が筆者の心に突き刺さり、いまでも忘れられない。

ドキュメンタリー映画の撮影のメインとなった石巻市門脇小学校は、海岸から数百メートルのところに入り、大震災時には、津波に加えてプロパンガスによる火災で、まったく使用できない状況となった。小学校の再開は、近くの門脇中学校で行われ、撮影場所もそちらとなった。

石巻市では大川小学校の児童八七名の犠牲が頻繁に取り上げられているが、門脇小学校でも三〇〇人中七名の犠牲者が出た。すべて自宅での被災であった。他方、学校に残っていた生徒たちは全員無事だった。青池氏は、大震災だからという理由だけでこの映画を撮影するのではなく、子供を中心とした映画記録を残そうという目的で取り組んだという。そのため震災発生のおとこの五月下旬

から一年間石巻に居住して撮り続けたという。津波のあとの時間割を
みなが共有する
映画タイトルにもある「時間割」というのは、学校の時間割というだけでなく、震災以後のすべての生活ということであり、その点で子供たちのみでなく、大人も、そして東京圏、関東圏にいる人間も程度の差こそあれ、共有すべきものであると語られていた。しかも、その時間は少なくとも数年は続く見込みという。

現在も住む家を持たずに仮設住宅に居住している被災者は二七〜二八万人といわれている。そして、この会の開催日当日で震災発生一〇〇一日目となり、被災者の身体的・精神的疲労はピークに達していることを忘れてはならない。

報道が以前より大分少なくなってきたが、被災地の現実は何も変わらないし、むしろ悪化している部分もたくさんあるということをお忘れはならないと思う。青池氏も、被災地で被災者と三〇分程度話しているうちはみな元気だが、それ以上になるとつらさ、苦しさを吐露してくるという。こうした現実を、東京や関東では分からない。だからこそ映画を通して、被災地と被災地ではない地域を結び付けていきたいと語られていた。

「旬味 ささや」
〒103-0013 東京都中央区
日本橋人形町2-16-4
池田ビルB1F
TEL 03-6661-7909
地下鉄半蔵門線、水天宮前
徒歩3分
第三回開催
1月23日(木) 19:00開始
貸切、定員20名

今後の三陸酒海鮮会
この「三陸酒海鮮会・日本橋開催」は二回目、「三陸酒海鮮会・渋谷開催」は四回目を数えた。単に飲んで食べて復興支援をするという趣旨で始めたが、それだけでなく、被災地と直結する関係を今後も模索し続けていきたいと思う。



三陸の海鮮
マダコ・ほたて・クジラ



開始 30 分前だが待てそうもない



菅野氏による乾杯



お店入り口



カウンターもいっぱい



お酒の一部

「埋もれた東北文化を掘り起こす旅」その⑦

「最北端の前方後円墳と山神社」

宮城県・美里町の前方後円墳一保土塚古墳・京銭塚古墳と山神社取材レポート



山神社



第一鳥居



山神社庭園



拝殿内に奉納されている男根型御神体



山神社近くの道祖神

幼少時のかん違い発覚
何の脈絡もなく、唐突に美里町を取材しようと思いついた訳ではない。古代の蛇信仰を調べ、その関連で山の神信仰へと展開していくうちに、美里町の山神社に辿りついたのだ。

この町は筆者の故郷の隣町であり、昔よく行ったことがある。懐かしさもあり、矢も盾もたまず、取材することにした。実に五〇数年ぶりの訪問となった。

小牛田・山神社
山の神という神さまは多様な役割を担ってきた。古

来、農民の間では、春になると山の神が、山から降りてきて田の神となり、秋には再び山に戻るといふ信仰がある。すなわち、一つの神に山の神と田の神という二つの霊格を見ていた。

ての山の神の実体は祖霊であるという説が有力である。正月にやってくる年神も山の神と同一視される。また、この山の神は一年に十二人の子を産むとされるなど、非常に生殖能力の強い神とされる。そこから子授け・安産・子育ての神としても信仰されてきた。

一般民衆のみならず武家も篤く信仰し、白石片倉家・亘理伊達家・角田石川家・岩出山伊達家・涌谷巨理家など、奥方の御産の際は家臣を代参させ、安産祈願の神札をうけたという。

保土塚古墳は幼少時に遊んだ場所
前記のように、つっきり

京銭塚古墳
この古墳も古墳時代中期(五世紀末から六世紀)のもので、「保土塚古墳」からあまり離れていない場所にある。小牛田駅の近くにあるが、入り口を探すのに大変苦労した。

歴史・文化への誇り
民俗の誇りは、その民俗の持つ歴史や文化に対する誇りでもあると思う。



円墳か前方後円墳か、保土塚古墳



保土塚古墳 説明



看板がなければ分からない京銭塚古墳



京銭塚古墳 説明

幼少時によく遊んでいた場所が山神社と思い込んでいた。鳥居があつたために思い込んでいたが、この鳥居は「忠魂碑」の入り口であった。

しかし見つけた時は、そんなに重要な古墳なのかと思つた。あまりにも粗末に扱われているのが一目で分かる。しかも古墳の原型をほとんど留めず、民家や寺が古墳上に建ち、駐車場に

東北郷土芸能縄文起源説 ①

『東北の郷土芸能は、古くは、縄文信仰を起源とし、その後も幾多の変容を伴い継承されてきている』という大胆推論!



大湯ストーンサークル

被災地でなぜ郷土芸能が復活したのか?
3・11直後、三陸沿岸部の甚大な津波被災地から被災の傷が癒えない状況で、かつ衣食住を整備するのにおぼつかない状況で、永年伝承されてきた郷土芸能を復活しようという機運



縄文の祭りイメージ (大湯ストーンサークル館)



獅子躍門付け一位牌・供養

が同時多発的に起きた。あるいは、永年途絶えていた郷土芸能であったが、津波で流された郷土芸能の祭具が見つかった、それを契機に復活しようという動きも多々あった。

その復活の動機についてはさまざまな解説がなされた。被災者への供養のためとか、バラバラになった元住民を再びつなぐ手段とし

て必要だったとか、郷土芸能復活で被災地復興の機運を盛り上げようとしたのだから、さまざまであった。他方、東北以外の地域から、この緊急時に祭りを開催するのはおかしきという意見もあったようだ。

「しし踊り」と供養

そこで筆者は、郷土芸能復活の有力な理由のひとつと思われる「供養」という観点から、東北の宗教と郷土芸能の関係についていろいろ調べ始めた。

最初は、岩手から宮城北部にかけて多く残る「しし踊り」を中心に調べていった。実に多くの流派が存在する。分類も容易には出来ないくらいである。

また、「しし踊り」と書いたが、これには理由がある。流派によって、「獅子躍」、「獅子踊」、「鹿踊」など、名前が異なり、間違えと大変なことになる。

を見つけたのだ。岩手県では現在でも、「しし踊り」が各家々を回る門付けを行っている。その際に、庭に面した縁側に位牌を持ち出して、「しし踊り」の踊りで供養してもらおう習慣がある。それをたまたま映像で見たのである。

修験道と郷土芸能

同時に、「しし踊り」だけでなく、東北の神楽についても調べ始めた。活発な所作と娯楽性の強い演目を中心とした南部神楽、山伏により伝えられたとする歴史の古い法印神楽、山伏の祈祷の色を強く残す大乘神楽などであった。

さらには、神楽の演目に加えられる「三番叟」は神楽の歴史よりもさらにもっと古いということも知った。調べていくうちに、東北の古い郷土芸能には特に、修験道、すなわち山伏が大きく影響していることが分かってきた。

その最も起源の古いのは、仏教が伝来し、古来の山岳信仰と習合した時代であり、奈良時代から平安初期にかけての時代と考えられる。

しかし筆者の興味はさらに時代を遡り、山岳信仰から古神道、弥生、もつと遡って縄文信仰と興味の範囲が広がっていった。

日本の宗教の変遷と祭との関係

日本の宗教を真正面から論じる知識は持ち合わせていないが、少し振り返ってみよう。

現在の日本の主な宗教にはまず仏教があり、神道がある。それ以前には古神道があり、中国の陰陽五行説が伝来して、仏教伝来前の日本の宗教に大きな影響を残している。その陰陽五行説は陰陽五行に基づく世界観であり、宗教でもある。そこに昔からの山岳信仰があり、さまざまに習合して、現在に至っている。

この間、郷土芸能もいろいろの影響を受けて、その都度変容して現在に至っているものと思われる。特に指摘したいのは、陰陽五行思想で、その影響はかなりあると思われる。それが、古神道から神道へ変遷する過程で、郷土芸能そのものにも大きく影響したと思われる。それらをすべて読み解くのはきつと大変な作業であろう。



三番叟



しし踊り



大乘神楽



ねぶた



鬼剣舞



法印神楽

東北古代中世史研究の 巨星 高橋富雄氏を偲ぶ

生涯東北の歴史を 追求した碩学

高橋富雄氏が10月5日に亡くなった。九二歳の大往生であった。東北の古代中世史研究における、文字通り「巨星」と言うべき大きな存在であった。氏は一九二一年に岩手県北上市に生まれ、その後東北大学教養部で講師、助教授、教授を務め、その後盛岡大学学長、福島県立博物館館長を歴任した。およそ東北史の研究者の中で氏の影響を受けた人々は皆無なのではないかとさえ思われる。それほどの存在感であった。驚くべきことに、氏は三年前まで岩手県一関市の市民有志と立ち上げた「みちのく中央総合博物館市民会議」の場で、何度も東北の歴史について講演を行っていた。三年前と言えは氏は実に八九歳。生涯現役で東北の歴史を追い続けた研究者だったのである。

執筆者紹介

大友浩平
(おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
http://blog.livedoor.jp/anagmasi/



Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.otomo

氏の「みちのく中央総合博物館市民会議」における講演内容は、実にありがたいことにすべて、同会議のサイト「みちのく中央磐井歴史物語」(http://inaigaku.com/)で読めるようになっていた。これは本当に貴重な遺産である。ここで語られている内容は、文字通り氏のそれまでの東北に関する歴史研究の集大成と言わなければならない。そして、氏のそうした講演内容を含む同会議での研究成果は「甞るみちのく中央」として、歴史春秋社から「高橋富雄東北学論集」の一冊として二〇〇九年に出版もされている。

「阿久利川事件」の 発生地を同定

「阿久利川事件」の発生地が宮城県栗原市志波姫の迫川流域であることを突き止めたことである。東北人にとって、この阿久利川事件は重大な事件である。東北を支配下に置こうと陸奥守として下向してきた源頼義に対し、当時岩手県の北上川流域の「奥六郡」を勢力下に置いていた蝦夷の安倍頼時はほとんど恭順を買い合戦を回避する。ところが、源頼義が陸奥守の任期切れで帰京する日を翌日に控えた夜に、頼義の郎従の宿宮が何者かに襲われた。頼義はこれを安倍頼時の息子の貞任の仕業だとして、貞任の首を差し出すよう頼時に要求したが頼時はこれを拒否。このことがきっかけで前九年の役が勃発するのである。

この阿久利川事件が、実は源頼義が仕組んだ自作自演、でつちあげであったことは歴史家の間ではほぼ既定の事実とされている。源頼義の宿宮を頼義が東北を離れる前日に襲うことのメリットなど安倍側には考えられない一方、頼義側にすれば襲われたことを大義名分にして任期切れでも帰京せずに済み、安倍氏相手に合戦を始めるきっかけを得られるというメリットがあるからである。

先ほど、「みちのく中央総合博物館市民会議」での氏の講演内容を、氏の「集大成」と表現したが、実はそれだけでは足りない。氏は「新説」も披露していた。例えば、「一関市東山町にある『二十五菩薩像』についてである。この『二十五菩薩像』が、一つとして完全なものがなく、またこの地に洪水が起きた際に流れ着いたという伝承が残っているもの、その成立の過程も謎に包まれていた。

氏は「みちのく中央総合博物館市民会議」主催の講演の中で、この『二十五菩薩像』について、「平重盛を弔うために制作され、この地に安置された」と主張した。そして、その観点から二十五菩薩像ができた経緯やそれがごとく破壊された理由を解説しているが、なるほど説得力のある説だと思つた。

このように、氏は東北の歴史に対して、終生変わらぬ興味と情熱と探究心とをもち続けておられた。そして氏の研究は、東北の歴史を日本史の中にどのよう位置づけるべきか、東北に住む者がそれをどのように理解すべきか、についてのたど私は考えている。

平泉関連の書の中でも、氏の「平泉の世紀―古代と中世の間(教養文庫)であると思う。平泉の百年を通じて、東北とは何か、その東北にあって平泉の持つ意味は何なのか、実に明確な主張として伝わってくる。この書籍を讀んでから平泉を訪れ、中尊寺や毛越寺を見ればきつと、より多くのものが観えてくるに違いない。

本書の中には、平泉とは何だったのかについての氏の解答が様々な角度から示されているが、平泉が築き上げた文化について氏は、「平泉では、三代そろつてみずから『東夷』『俘囚』と遜称したのに、『みやこ』はこの人たちを、公然と『夷狄』『戎狄』『えびす』と賤称した。にもかかわらず、その平泉は『みやこの文化』を『みやこさながら』に受け入れた。そして『みやこ』同等もしくはそれ以上の『みやこ』文化に再創造した。今日、金色堂以上に京都的・貴族的な総合日本文化はない。毛越寺浄土庭園以上に王朝の風雅を今にとどめる庭園遺構はないのである」と指摘している。加えてもう一つ、政治的には、「平泉にも『一天の君と雖も恐るべからず』の覚悟はできていた。…(中略)…ただし、それは『みちのく』を否定する政治に対する、いやイデオロギーに対する民族自決の主張である。国府や鎮守府や朝廷が一方的な主張に出ない限り、平泉は、自分だけが日本であるという主張はまったくしなかつた。はつきり、『もう一つの名誉ある日本の創造』という自覚に立っていた。

その上で、「二世紀、百年の長きに亘つて『地方の時代』というものを、実績をもって代表した歴史」である「平泉」こそが歴史の中で「地方の時代」というものを、きつちり考えることのできる具体的な代表例であると強調しておられる。氏の東北に対する汲めども尽きぬ思いがここにはある。氏のこの思いこそ我々が学ばべき本質がある。唯一残念だったのは、氏が存命の間に直接お会いしてお話を聞き取ることができなかったことである。是非一度お会いしたいとは常々思っていたが、日常の些事に追われて結局そのための行動を起こさずじまいだった。「思い立ったが吉日」と言うが、まさに思い立った時が「機が動く」時なのだ。今はただご冥福をお祈りすると共に、氏が残してくれたものを私なりに紐解きながら、いささかなりとも受け継いでいければと強く思う。

平泉の文化遺産の 持つ意味

「人の道が世にあるのは、すべて妻子のためである。たとえ貞任が愚かだとしても、父子の愛を捨て忘れることなどできない。ひとた

び貞任が誅されてしまったら、私に(それ以上)何を忍べというのか。(衣川の)関を閉ざし、(頼義が)攻め来るのを甘んじて受け、(その言い分など)聴くべきではない。私の同胞たちもまた、(頼義の要求を)拒み、戦うことに躊躇する者などいない。たとえ戦況が不利となつても、死ねぬことになつても、それは致し方ないことだ。そのような意味である。

「阿久利川」の場所が、長らく不明であった。高橋氏は地道な文献研究とフィールドワークとでその地を同定したのである。

世界遺産となつた平泉の文化遺産。それらの価値、そしてそれらを築き上げた奥州藤原氏の時代をどう解釈すべきか。それを考えるのに最適な書はあまたある

「私はいくつかの歴史常識を全面的に切り替えるような

『歴史学の構造改革』がなされねば、日本は変わっていかないと考えているのです。そしてそういうことを、こちらから発信するには、皆さん方のように私と同じく、東北という地に生まれ育ち、そしてその東北で仕事をしているみんなが、そういう東北そのものに自信を持つような学問をしつかり身につけるといふこと、これがまず第一です。次にそれが、他人にじゅうぶん通用して、そういう考え方に納得までしていただければ、そういつたところまでこの勉強を詰めていくことが大切でないかと、そう思っているんです。

「私はいくつかの歴史常識を全面的に切り替えるような

「東北の『今』へと続く
その目線」

連載
むかしばなし
色紙の巻
第七話
蝦夷の国境

国衛の独白が、少女の口から発せられ続ける。

俺は心のどこかでまだ迷っている。あるいは、既に後悔している。

奥羽には少なくとも十五万の兵力がある。だが今、出羽の海岸へ二万、陸奥の海岸に二万、そしてここ内陸に二万。配置したのは半以下だ。敵は各方面に十萬近く、つまり合わせて三十万に迫る軍を出してきているのだから、こちらに勝つ目はない。弟が始めから戦をする気がないのは明らかだ。



奥羽越境現象氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出沒し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当。

白だつたが、それでも武家として迎え撃つのが敵への礼儀だと俺は主張したのだ。

右手の山に火が見えるな。いよいよ頼朝が動き出したようだ。この草木も眠る刻に、深い山林の闇の中、大軍を以て攻撃を仕掛けてきたのだ。我が兵供の法螺貝が鳴っている。時の声も上がったな。森には恐ろしい畏が無數に仕掛けられていて、敵もそれを覚悟している筈だ。

もう、秋で収穫が近い。無駄に犠牲を増やして、民の暮らしまで破壊する事はできない。それが弟の言い分だつたな。総勢六万は飽くまで我らの国境を示す為。撤退もできるだけ早く始めてくれとな。

そうだ、ここが蝦夷の国境だ。伝令が来た。物凄いく数の敵兵が、森の中押し寄せてくると。ここからも判る。山の火が広がり、近づいて来ている。弓隊が樹間へ無数の矢を放つも、敵は倒れた仲間の死体を盾に、尚も進軍してくる。戦は真に狂気のなのだな。百年前には絶え間なく続けられていたという、清原、安倍、更に昔は阿弖流爲の戦。言い伝え

でしか誰一人知らぬその狂った地獄絵図の中に我ら子孫は今また、投げ込まれたのだ。

俺の考えるのは弟の事ばかりだ。とても武士とは言えぬ、優し過ぎる弟。だがまさに蝦夷そのもののあの弟を、どうやれば逃がせるかと。

山浦琴洋の、自動拳銃を握る手がぶるぶると震えている。その銃口は、藤原国衛の声で呪文のように独白を続ける少女に向けられているが、男の顔は蒼白で、恐怖に冷たい汗を垂らしている。「何だ・・・この娘は一体何だ・・・」

「巫女である。火を見るより明らかではないか。」男の背中に、藤原国衛が静かに、且つ威厳を以て論じた。「巫女に刃を向けてはならぬ。わしに向けよ。」

「言われて我に返つたように、山浦は身体ごと反転して、標的を泰衡に戻すが、目はぐらぐらと動揺している。『さて・・・この奥羽を勝ち戦へ導いて下さるとか、山浦殿とやら。兄・国衛の声はどうか、昨夜のもののご様子、おそろしく今頃は采配が決まっておるべし。頼朝の大軍もはや芝田辺りまで

迫つておる筈。何とするか。」山浦の歯がギリギリと鳴った。

「ぜ、全兵力を掻き集めよ。こげな場所にもたもたせず、直ちに平泉まで戻つて態勢を整え、改めて迎え撃つのだ。」

「それは良い。だが山浦殿、わしが何故この地に陣を張つたか、お解りか。」

「何？すぐに逃げられるように、だろ？」

「心外でござる。この宮城野、怖ろしき土地にござるぞ。旅人を惑わし、軍列を狂わせる。知られざる魔の境界なのだ。」



『東京五輪を撃つてみる』

先、東北楽天ゴールデンイーグルスの日本シリーズ初勝利を、この二箇月前に、主に首都圏を“沸かせたであろう二〇二〇年オリピック東京開催の招致成功と並べて、今年の日本スポーツ当たり年と呼ぶ人が多思うのだが、実のところこの二大ニュースが地方と中央の関係という日本の構造的命題の観点から、むしろ相反する意味を持つものである事を重く見る人もまた、少なくないのではないか。

東京のマスコミは発し続ける。「東京から、日本を元気にする」と。だが、前回とはもかくとして、現代の地方人は殆ど誰も、このような口上を間に受けはしないだろう。もはや、皆が知っている。「全ての地方人が自分の力で元気になっていく」他はないのだという事を。勿論、それは東京の為などではない。かの高度経済成長の時代より五、六〇年をかけた中央に養分を吸い取られ尽くした地方は、まさに疲弊しきつていて、一体、この上東京はどこから、何をもらつていくというのだろうか。

楽天イーグルスの日本一達成は、誤解を恐れずに言えば震災がもたらした奇跡とも思える出来事であり、スポーツという事業が起し得る最大限の人類の力の昇華とさえ言える事件であった。またそれは、スポーツの域を超えて東北全体の歴史上においても「中央を遂に下した」画期的な偉業だったのである。今回の日本シリーズは野球史上最も感動的との声も高く、確かに日本スポーツ界全体で見ても素晴らしい事だつたらうが、やはり先ず東北の誇るべき物語、まさに地方の宝であり、希望なのだという事を強調しなければならぬ。

勿論、楽天球団は東北の力だけで生まれた訳ではないし、震災後も全国の人の助けを含めて、今回の結果があつただろう。しかしそうして力を与えられた東北が、次に全国をも力づけるきっかけになっていくに違いないのである。

東京オリピックもまた、確かに日本全体の果報とは言えるだろうが、やはり先ず東京の物語なのである。しかしやはり同じように、東京だけで成し得るものではなく、全地方の助けを必要とするものだ。ではそれが従来のような、地方の力を吸い上げるだけの東京、という形にならないのか、どうしたらいいのか。

私は以前、仙台には東京のように唯周囲の富を吸い上げ肥大していくのではなく、東北各地の力を交差させ循環させる心臓のような、新たな「首都」の可能性があると書いた。それは半ば自身の願望でもあつたが、もともと都市が国家や地域の一部である事を自覚するならば、当然理想とすべき姿である筈で、他ならぬオリピックの開催を標榜する東京そのものに求められる資質なのである。しかし現実の東京は、まるで都市国家気取りであり、地方あつての都市という謙虚な自覚に欠けている。TPP推進は海外のモノが入手できれば地方は不要、と言うも同然だし、

原発事故への反省のなさは「地方は使い捨てで、取替えが利く」とでも言わんばかりである。このような現状の東京に、地方は心から力を貸せるだろうか。そして地方は本当に東京から元気を与えられるだろうか。

「私に会いたければ、ここ(右手)に会いに来れば良い。」

このドラマは地元アイドルという、一昔前なら冗談としか思えなかつたような社会現象を取り上げ、これを敢えて東京との関係性の中で描き出そうとした一つの冒険だつたように思う。

地元アイドルこそは、東京中央の力を借りず、「自分の力で元気になっていく」地方の象徴的存在であり、会いたければ東京からでも会いに行くしかないのだ。物語の「東京」は彼女らすらも取り込もうとするが、主人公は東京を経て尚も東北へ帰し、逆に東京人達を取り込みさえしてしまうのだ。ここで東京が、地方の力を吸い上げる収奪者から、地方人達を交流させ再び解き放つ仲介人のような存在へ転換している様に気づかねばならない。これは震災を経て地方を振り返り始めた人々による、単なる東京否定ではない、むしろ東京を解体し、地方の為に作り変えようという、東京再編宣言なのだろう。いや、もはや東京に期待はするまい。楽天と巨人が対等に戦つたように、アキとユイが東京人を翻弄したように、私達はここから、彼らに東北の真髄を示していくのみである。

先、東北楽天ゴールデンイーグルスの日本シリーズ初勝利を、この二箇月前に、主に首都圏を“沸かせたであろう二〇二〇年オリピック東京開催の招致成功と並べて、今年の日本スポーツ当たり年と呼ぶ人が多思うのだが、実のところこの二大ニュースが地方と中央の関係という日本の構造的命題の観点から、むしろ相反する意味を持つものである事を重く見る人もまた、少なくないのではないか。

先、東北楽天ゴールデンイーグルスの日本シリーズ初勝利を、この二箇月前に、主に首都圏を“沸かせたであろう二〇二〇年オリピック東京開催の招致成功と並べて、今年の日本スポーツ当たり年と呼ぶ人が多思うのだが、実のところこの二大ニュースが地方と中央の関係という日本の構造的命題の観点から、むしろ相反する意味を持つものである事を重く見る人もまた、少なくないのではないか。

先、東北楽天ゴールデンイーグルスの日本シリーズ初勝利を、この二箇月前に、主に首都圏を“沸かせたであろう二〇二〇年オリピック東京開催の招致成功と並べて、今年の日本スポーツ当たり年と呼ぶ人が多思うのだが、実のところこの二大ニュースが地方と中央の関係という日本の構造的命題の観点から、むしろ相反する意味を持つものである事を重く見る人もまた、少なくないのではないか。

シリーズ 遠野の自然 「遠野の祭り③」 遠野 1000 景より



神楽奉納

前回はいろいろな「まつり」の意味を考えてみた。確かに、古神道や神道、日本各地に伝わる土俗的な伝統信仰などの宗教的な観点からして、あるいは民俗学的見地から、はたまた、神話や歴史学的な観点から

みて、そうした定義は当然だろうと思う。そこにあって異論を差し挟むつもりはない。しかし、これらの定義だけでは、いま日本中で起きている祭りブームを説明するには十分ではないような



ゴンゲ様に頭を噛んでもらう



雨祭りの後

気がする。もし素人の浅知恵をご披露することをお許しただけるのであれば、純然たる宗教的な意味合いではなく、また、宗教関係者だけの定義とは別に、一般民衆も参加する祭りの観点からの意味付けが加えられてもいいのではないかと思う。

◇

まずは、祭りのあのほとばしるような熱気、祭りに参加する人々のあふれんばかりのエネルギー、血湧き肉踊る興奮、恍惚感、完全燃焼するまで踊りきるパワーなど、祭りのエネルギーシユな側面がある。これらどこから来るのだろう。または、この世界の究極的かつ永遠の存在と一体と



お通り

なることを求め、そこに幸福感を見出そうという意思なのであろうか、日常を離れた非日常空間としての祭りの場が造られ、展開する。これは人間の生命が有限であり、どこかでカミサマと一体になることで、一瞬でもいいから永遠の命に連なりたいという願いから来るのだろうか。あるいは人

間の生死を越えたこの世ならぬ世界に触れたいということであろうか。こうしたことをはっきり意識して祭りに参加している人はいないだろう。ほとんど意識されずにはいるが、祭り関係者には秘かに伝承されていて、これからも伝承されて行くことだろうと思われ。



奉納に向かうさんさ踊り



附馬牛のお祭にて

◇
もし、こうした意味付けが当たらずとも遠からずであるならば、祭りの根幹的な部分はやはり非常に宗教的なものであると思う。しかも、神道だ、古神道だ、仏教だと明確な宗教形式には収まらない一種の宗教感覚ともいえるべきものではないだろうか。

それが、代々伝承されてきたのだと考えられる。あるいは、日本という風土が育んできたものだと思う。だから、日本はけっして無宗教の国ではありえないのだ。この無宗教の国一日本という明治以降に世間に流布されてきた考え方には、ずっと疑問を抱いてきた。明治初期に流入してきた、



奉納額

西歐的な一神教のみが宗教であるという外来文化偏重のもたらした結果が、その後だれも否定せずに来たせいで、ずっと支配的だったにすぎないのではないか。全国各地にある祭りの現場を見聞きするにつけ、どこをとって、日本を無宗教の国というのかとあらためて思うのである。



例祭当日

福島へ届け！【教育の大鐘】の音 臨濟宗妙心寺派は原発ゼロ宣言

「原発は危ないもの、命を大切にできるものとはいえない、きちんと処理できないものは後世に残してはいけない」

静岡県浜松市 極楽寺 小川住職寄稿

笑い仏さん

福島への行脚

第十一回

笑い仏の隣にある黒板
宮城への震災支援協力の書きこみ



ない。きちんと処理できないものを後世に残すことは、生きていくものがないことではないです。

笑い仏の隣の黒板には、宮城県の津波被害についての書き残しがあります。

住職は、時に触れ、東日本大震災のことを檀家さんと共に話す機会がある

現在、福島県を目指す「笑い仏」は静岡県浜松市の極楽寺に逗留しています。浜名湖に面した風光明媚な景色が楽しめる禅寺で、目立つところに、とお気遣いいただき、本堂の立派な天蓋の下に安置して頂いております。

穏やかな浜名湖が望める極楽寺を南に五キロ行くと遠州灘に出ます。そこからさらに東に五〇キロばかり行くと、御前崎市。中部電力唯一の原発、浜岡原子力発電所があります。福島から遠く離れた静岡とは言え、東海地震が懸念されているこの地は、嫌でも原発について考えなければならぬ土地なのです。

小川住職は言います。「われわれ臨濟宗妙心寺派は原発ゼロを宣言しています。命を大切にできるものとは言

昨年晩秋に、妻を亡くされてから、毎日のように、墓参を続けている方がおられます。野田英一さんは、俳句歴三〇年。住職の愚作に負けず、一句を手向けてほしいと、お願いをしています。

寺総代の永野政美さんは、小・中学校の美術科の教師です。笑い仏さんの到着後、早速絵筆をとり、写仏してくださいました。この絵が、仏さんの隣に安置され、お寺の話題になつていきます。

年忌法要で参拝される人も、お寺にある『教育の大鐘』を撞きにくる方にも線香一柱をお願いします。

現在、浜岡原発は停止中で、中部電力管内では原子力発電所は一基も稼働していません。ただ、これも一時的な処置なのかもしれません。我々一人一人が「声を出さすこと」の重要性を、つとに感じます。

以下に、小川住職の寄稿文を紹介させていただきます。

「がれき仏 被災の寒地へ旅続く」
毎日、がれき後背仏の前で手を合わせています。次のお寺へと旅立られるまでは、極楽寺の大切なお客様です。被災地・福島までの長旅は、本当に苦勞様のごとで、朝の読経のときに、ふと口にした一句を初めて書き留めてみました。生まれて初めての句作です。

小川住職のひたむきな思いが伝わってきます。

さて、お寺の話に戻りましょう。天正年間、つまり一六世紀からの歴史を持つ極楽寺には自慢の一品があります。お寺に至る道すがら、かぶつのような屋根をかぶつた巨大な鐘楼が迎えてくれますが、この『教育の大鐘』です。

風変わりな名前の鐘は、そばに寄るとその巨大さにも驚かされます。鐘の大きさは二七四センチで、重さ四・一六トンといいますが、正真正銘の大鐘です。またの名を『めざめの鐘』ともいうこの大鐘には、素敵なエピソードが詰まっています。小川住職に説明していただきます。

「私は昔、公立中学の先生をやっていたんですよ。昭和五〇年当時は学校が荒れた時期でしたね。まあ手を焼いたものです。」
そこで、小川先生は札付きのワルたちをお寺に招き入れたのだそうです。

「まず四人を連れて来たら、仲間を呼んで来てね。寺の掃除とか草抜きとかをやらせましたよ。最初は適当でしたけど。それで、皆で一緒にご飯を食べるんかんの質素なもの。でも、お腹が空いていると、これがかうまく感じるんだなあ。父兄の方々から、『結構なもの有難うございまして』って有難がられたんですよ。」

お寺での共同生活で、素行の悪かった生徒たちも少しずつ心を開いてきました。そこで、小川住職は教え子に、ある約束をさせました。

「卒業したらお前ら、人一倍働けよ。私は鐘を作るから、お前らはお金を持って来て来てね。彼らに将来の目標も書かせたんですよ。そしてその後日、彼らが本堂にお金を持ってきたんですよ。ある者は社長になりました。ある者は寿司職人になりました。嬉しかったんですよ。それからね、彼らが中心になって、寄付活動もやってくれたんで、こんなに立派な鐘楼が、檀家さんに頼らずに、彼らや学校関係者の寄付で作られたんですよ。これまで一〇〇〇人以上の方々が寄付を頂いてきました。だから、その名を『教育の大鐘』という訳です。」

平成一六年四月十一日に、この鐘の入魂法要が行われました。もちろん、当時のやんちゃ坊主たちも多出席して、鐘をついたことです。

鐘楼のある高台からは、穏やかな水面の浜名湖が望めます。大鐘を「えいっ！」と撞くと、まわりの空気をビリビリと震わせる強烈な振動が起こり、その波で自分が反対に撞かれたような気になります。それがまた何とも心地よいのです。

「辛いときに撞きに來る教え子もいます。孫を連れて撞きに來る教え子もいます。また話を聞いて、鐘を撞かせてほしいという人もおられます。その方は奥さんを亡くされていて、決まってこの高台に登っては、撞いて行かれるんですね。」

今でも、大鐘は多くの人の胸に響き続けています。お寺は檀家のためだけにあってはならず、周りのみなに開かれたものであるべきでしょう。多くの教え子に恵まれた小川住職だからこそ、この大鐘を作ることができたのだと思います。

「言い方は悪いけどね、人間は一回落ちたら考え方が変わるんだな。それは教え子たちが教えてくれたことです。そういう大事なことを気づかせてくれる鐘でもあるんですよ。」

小川住職に聞けば、この鐘を撞いた福島の方はまだ

おられないそうです。確かに、福島から浜松は遠いですが。でも、原発被害で苦しむ方々がこの大鐘を撞けば、その音色が疲れた身体を癒してくれるのではないだろうか。そんなことをしばし考えました。

なお、「笑い仏」は正月明けまで逗留させていただきます。訪れた方が大鐘を撞くことも、もちろん可能です。(MONKフォーラム 長谷川 稔)

＊極楽寺の住所は浜松市西区雄踏町山崎3232。ご訪問の際は、お電話をお願いします。電話番号は053-592-1086。最寄り駅はJR舞阪でタクシーなら約10分。お車なら東名高速道路・浜松西ICから約20分です。

正月明けまで逗留する
笑い仏さん



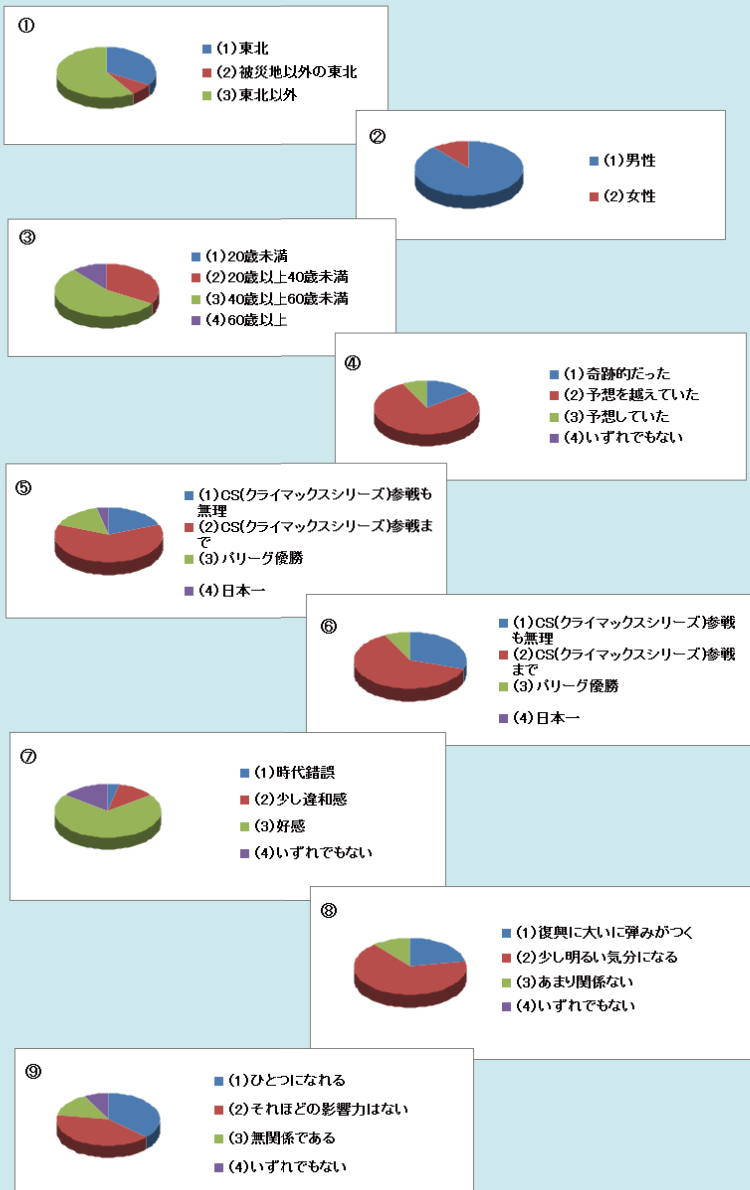
正月明けまで逗留する
笑い仏さん

寄付だけで作られた巨大な【教育の大鐘】



第18号 ネットアンケート集計結果 楽天日本一と東北復興

No.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北	9
	(2) 被災地以外の東北	2
	(3) 東北以外	16
②	性別	
	(1) 男性	24
	(2) 女性	3
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	9
	(3) 40歳以上60歳未満	15
	(4) 60歳以上	3
④	楽天の活躍をどう感じたか	
	(1) 奇跡的だった	4
	(2) 予想を越えていた	21
	(3) 予想していた	2
	(4) いずれでもない	0
⑤	今シーズン開始前予想	
	(1) CS(クライマックスシリーズ)参戦も無理	5
	(2) CS(クライマックスシリーズ)参戦まで	17
	(3) パリーグ優勝	4
	(4) 日本一	1
⑥	今シーズン4月末時点予想	
	(1) CS(クライマックスシリーズ)参戦も無理	8
	(2) CS(クライマックスシリーズ)参戦まで	17
	(3) パリーグ優勝	2
	(4) 日本一	0
⑦	「魂見せる」はどうか	
	(1) 時代錯誤	1
	(2) 少し違和感	3
	(3) 好感	19
	(4) いずれでもない	4
⑧	楽天日本一の東北復興への影響	
	(1) 復興に大いに弾みがつく	6
	(2) 少し明るい気分になる	18
	(3) あまり関係ない	3
	(4) いずれでもない	0
⑨	楽天日本一で東北はひとつになれるか	
	(1) ひとつになれる	10
	(2) それほどの影響力はない	11
	(3) 無関係である	4
	(4) いずれでもない	2



今回のテーマは「楽天日本一と東北復興」でした。第7戦までもつれた日本シリーズは、11月3日、東北楽天が劇的に勝利し、東北全体が盛り上がりました。アンケートはその偉業と今後の東北復興との関連についてお聞きしました。回答者は、何度もご協力をお願いした結果、おかげさまで27名となりました。

「楽天の活躍をどう感じたか？」は、「予想を越えていた」が約77・8%で圧倒的。「今シーズン開始前予想」は、「クライマックス参戦まで」が約63%、「クライマックス参戦も無理」が約18・5%、「パリーグ優勝」が約14・8%、「日本一」はわずかに約3・7%。5位まで落ちた「今シーズン4月末時点予想」も「クライマックス参戦まで」が約63%でシーズン開始前予想と同数、「クライマックス参戦も無理」が約29・6%、「パリーグ優勝」が約7・4%、「日本一」はゼロ。選手間で交わされた言葉、「魂見せる」はどうかは「好感」が約70・4%。「楽天日本一の東北復興への影響」については、「少し明るい気分になる」が約66・7%、続いて「復興に大いに弾みがつく」が約22・2%。「あまり関係ない」が約11・1%。「日本一で東北はひとつになれるか」は「それほどの影響力はない」が約40・7%、「ひとつになれる」が約37%、「無関係」は約14・8%。

編集後記

今回の「埋もれた東北文化を掘り起こす旅」にも少し書いたが、人間の記憶のあてにならないこと、また時間経過とともに記憶内容そのものが大きく変容してしまうことであらためて驚いた。

何度も何度も記憶を反すうするうちに少しずつ変化して、長い時間の後には大きく変容してしまうのか、あるいは不確かな記憶をベイスにするからどんどん変容するのかわからないが、恐ろしいものである。

一人の人間の記憶さえこういったありさまなので、ましてや古代、超古代の人類の記憶など、長い時間経過の末に、真実の姿から全然別物に変容したとしてもおかしくはない。そしてその別物を真実の姿と信じ込んでいたりする。現にそうしたことも見聞きする。そして新たな探究によって過去の歴史が別物だと分かり、入れ替わるのである。

筆者も、東北の古代、超古代の歴史にこうした可能性があるのではないかと思っている。

そのため、今回号で取り上げた宮城・美里町の古墳などは、さらなる追加の研究が必要ではないかと感じている。

そんなことで、今回は、宮城北部の縄文時代の遺跡を探索してみたいと考えている。期待して欲しい。

革物屋 (かわもんや) WEB完全リニューアル (WEBを移動しました)

<http://www.birthday-press.com/> (バースデイプレス) → 「小物のカテゴリー」 → 「レザー」

ミニバッグ Handy Second



持っていくくなる革バッグ。インナーバッグとしてもお使いいただけるセカンドバッグ。革は薄めの柔らかいものを使用し、手触り感を重視いたしました。内側は耐久性のある光沢ナイロン製布を使用。

ミニバッグ Tiny Dice



用途ご自由の四角いケース。重量40gと比較的軽量の製品ですので、携帯ストラップ用としてお使いいただくもよし、大きなバッグに吊り下げていただくもよし。また、中に贈り物をつめてプレゼントケースとしてのご利用も一考かと。使い方は工夫次第。

ミニバッグ Tiny Log



用途ご自由のまるいケース。重量40gと比較的軽量の製品ですので、携帯ストラップ用としてお使いいただくもよし、大きなバッグに吊り下げていただくもよし。また、中に贈り物をつめてプレゼントケースとしてのご利用も一考かと。使い方は工夫次第。

モバイルバッグ Beans L



レザーでオールマイティ、両方のご満足。これまで、オールレザーでお手頃価格のモバイル端末用バッグは多くありませんでした。また、各モバイル端末専用バッグはありましたが、どの端末でも収納可能なオールマイティバッグも多くはなかったようです。Beans Lは、その両方でご満足いただけるバッグです。

モバイルバッグ Beans S



レザーでオールマイティ、両方のご満足。これまで、オールレザーでお手頃価格のモバイル端末用バッグは多くありませんでした。また、各モバイル端末専用バッグはありましたが、どの端末でも収納可能なオールマイティバッグも多くはなかったようです。Beans Sは、その両方でご満足いただけるバッグです。

モバイルバッグ Handy Pouch



あなたにお供するポーチ。持ち運び可能で、デスクやテーブルに置いて開け閉めできるポーチ。上下蓋部分の内側にスポンジを挟み込んでおりますので、モバイル端末機器の付属品の収納にもお使いいただけます。